

第1 災害に強く安心安全なまち

施策1 自助力・共助力・公助力の向上を進めます

施策の展開

防災意識の向上 (自助力向上)

様々な機会を通じて、防災意識の啓発や防災教育の充実をはかり、防災についての理解を深め、家庭での家具の転倒防止や備蓄など区民一人ひとりの具体的な行動を促します。

また、伊勢湾台風など過去の災害の記憶を未来へつなぐ取り組みを進めます。

地域防災力の向上 (共助力向上)

区役所、消防署が、地域とともに地区防災カルテを活用した話し合いを継続的に実施し、地域の特性に応じて、きめ細やかな支援を実施します。また、災害時の資材の提供など地域・事業者・行政が円滑に協力できるよう日頃からの連携強化を進めます。

災害対応力の向上 (公助力向上)

大規模災害を想定した実践的な訓練や研修を繰り返し実施し、職員の災害対応力の向上をはかるとともに、円滑な災害対応に向けて、職員と地域との顔の見える関係を築きます。

消防署と消防団、隣接消防団同士の連携や、南区を管轄する行政機関同士の連携を強化するとともに、行政と民間事業者との応急給水活動における連携も推進します。

南海トラフ巨大地震に備えた河川堤防や配水管などの耐震対策を進めるとともに、大雨に備えた治水対策を推進します。

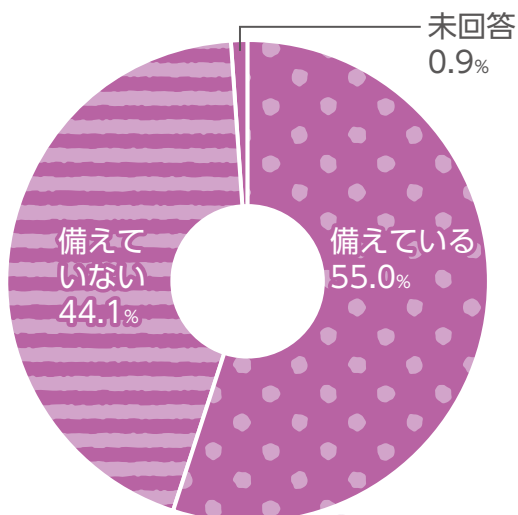
	成果指標	現状値	目標値（令和5年度）
1	家庭内において災害に対する備えをしている区民の割合	55.0%	100%
2	地区防災カルテを活用した防災活動に取り組んでいる学区の数	18 学区	18 学区
3	地域防災協力事業所のうち地域との連携強化を図った事業所の割合	36.4%	100%
4	災害に強いまちづくりができていると思う区民の割合	48.0%	51%



現状

- ・南海トラフ巨大地震の被害想定（あらゆる可能性を考慮した最大クラス）において、南区の死者数は約 1,400 人となっています。
- ・南区は伊勢湾台風による大きな被害を受けました。そして、近年では 1 時間に 50mm を超える降雨の発生回数が増加傾向にあります。
- ・アンケートによると、家庭内において災害に対する備えをしている区民の割合は 55.0% となっています。
- ・高齢化の進展に伴い、災害時に支援を必要とする高齢者も増加しています。
- ・自主的な防災活動に積極的に取り組む地域がある一方、防災の取り組みが十分進んでいない地域があります。
- ・南区において、102 の地域防災協力事業所、228 の津波避難ビルと協定を締結しています。（平成 31 年 4 月 1 日現在）
- ・防災訓練や防災研修など職員の災害対応力の向上を進めています。

図 4.1 家庭内において災害に対する備えをしている区民の割合



課題

- ・災害時の被害を軽減するために、区民一人ひとりが、地域の災害リスクや必要な避難行動について理解を深め、家庭での家具の転倒防止や備蓄などの自助力の向上を進めることが必要です。
- ・発災直後の救助活動や避難所の開設・運営、要配慮者の支援などを担う地域の防災コミュニティの活性化が重要であり、地域特性に応じた支援が必要です。
- ・災害時における地域と事業所の協力関係の構築をより一層進めることが求められています。
- ・大規模災害時に、区災害対策本部を円滑に立ち上げ、適切に災害対応にあたることができるよう区災害対策本部の機能強化が求められています。
- ・大規模地震や大雨などの災害に強いまちをめざし、着実な災害対策の推進が求められています。

図 4.2 河川堤防の耐震対策（山崎川）



第1 災害に強く安心安全なまち

施策2 防犯・交通安全の啓発と環境整備を進めます

施策の展開

犯罪のない 地域づくり

地域や警察と連携し、防犯キャンペーンなどを通じた啓発活動を進め、防犯教室の開催など地域の自主的な防犯活動を支援します。また、防犯カメラや防犯灯の設置により、住宅侵入盗や自動車盗などを抑止する環境整備の支援を進めます。

また、特殊詐欺の対策に関する広報を行い、被害に遭いやすい高齢者への啓発を進めます。

交通事故のない 地域づくり

地域や警察と協働して、交通安全教室や自転車安全教室などの啓発活動を実施するとともに、地域の自主的な交通安全活動を支援します。また、高齢者に向けた反射材利用や運転免許証の自主返納を促進します。

交通事故危険か所や通学路の安全を確保するために、交通安全施設の整備を進めます。

	成果指標	現状値	目標値（令和5年度）
1	犯罪が少なく安心して暮らせると 思う区民の割合	65.5%	70%
2	人身事故件数	493 件 (令和元年中)	305 件 (令和5年中)



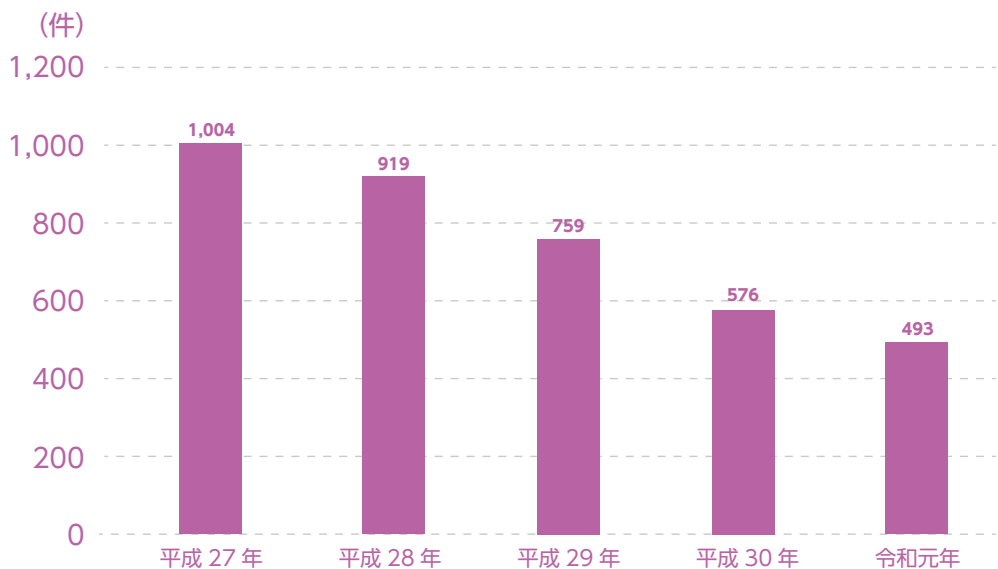
現状

- 南区の重点罪種の刑法犯認知件数は 467 件（令和元年中）となっています。
- 「振り込め詐欺」などの高齢者を主なターゲットとした特殊詐欺が発生しています。（認知件数 9 件、被害額約 1,108 万円）
- 南区の人身事故件数は 493 件（令和元年中）となっています。
- 国道 1 号、23 号、247 号など交通量の多い主要路線が南区を通り、多くの人身事故が発生しています。
- 南区の交通事故死者数に占める 65 歳以上の高齢者の割合が高くなっています。また、高齢化の進展に伴い、今後、加害者に占める割合も高くなることが予想されます。

課題

- 区民一人ひとりが高い防犯意識を持ち、犯罪にあわないように注意・行動するとともに、地域で犯罪を抑止する環境づくりや自主的な防犯活動が必要です。
- 特殊詐欺の被害に遭いやすい高齢者がその手口や対策を知ること、特殊詐欺に備えることが重要です。
- 地域や警察との協働により、さらに交通安全の啓発活動を進めていく必要があります。
- 高齢者が交通事故の被害者、加害者とならないよう対策を進めていくことが求められています。

図 4.3 南区人身事故発生件数の推移



出典) 交通安全統計

第1 災害に強く安心安全なまち

施策3

衛生的な環境を確保し、
環境にやさしい暮らしに向けた取り組みを進めます

施策の展開

環境にやさしく 清潔なまちづくり

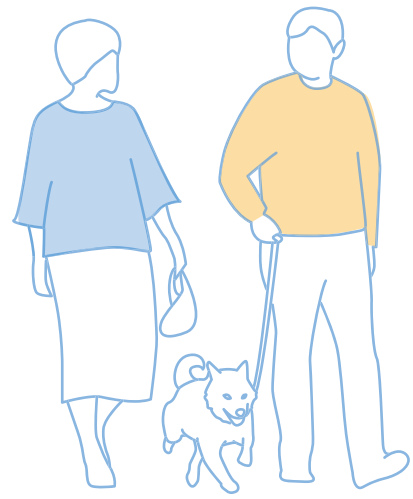
環境保全に向けて、自然観察会などの地域での実践活動を通じた環境学習や、様々な機会をとらえた啓発活動に取り組むことで、環境にやさしいライフスタイルへの転換を促します。また、分別・リサイクル方法の啓発を進め、3Rの推進によるごみの減量に取り組みます。

区役所と環境事業所が協力して地域の自主的な清掃活動を支援します。

人と犬猫が 共生できる まちづくり

犬猫の飼主などのマナー向上のため啓発活動を行います。また、地域住民との協働により、地域ののら猫の適正管理に努めます。

	成果指標	現状値	目標値（令和5年度）
1	環境に配慮した行動をとる区民の割合	83.1%	90%
2	近隣の犬猫について迷惑を感じている区民の割合	40.0%	34%



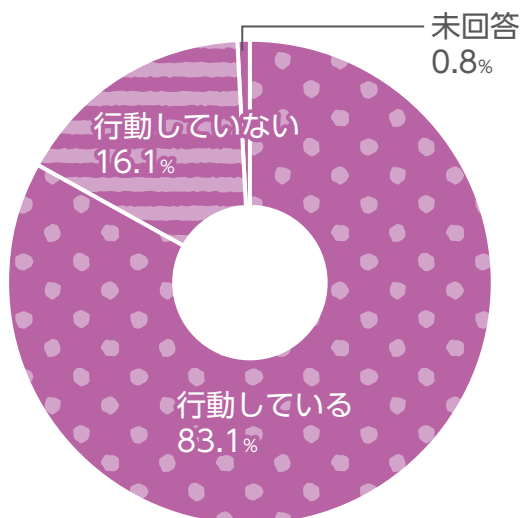
現状

- ・環境学習を通して環境にやさしいライフスタイルへの転換を促進しており、「環境に配慮した行動をとる区民の割合」は83.1%となっています。
- ・南区の平成30年度のごみの収集量は24,000トン余と平成29年度と比べてほぼ横ばいとなっています。
- ・地域や関係機関と協力して、クリーンキャンペーンを実施しています。
- ・南区のペットに関する苦情のほとんどは犬猫によるものであり、その苦情は減少傾向にあるものの、4割の方が近隣の犬猫について迷惑を感じています。

課題

- ・環境問題の解決には、区民一人ひとりが環境に配慮し、具体的に行動する必要があります。
- ・ごみ減量を推進するために、分別・リサイクルを徹底することが重要です。
- ・人と犬猫が快適に共生できるまちをめざし、飼主などのマナー向上を進める必要があります。

図 4.4 環境に配慮した行動をとる区民の割合



出典) 令和元年度南区区民アンケート

図 4.5 近隣の犬猫について迷惑を感じている区民の割合



出典) 令和元年度南区区民アンケート